

令和6年度 学校自己評価

		A	B	C	D
1	■目標（１）安全安心な学校づくり【2. 63】 ①安全教育の推進（交通安全教室、交通立ち番指導、各科安全教育など） ②環境整備の推進（清掃指導、自分のゴミ持ち帰りなど） ③健康の保持増進（健康観察、保健カード活用など） ④危機管理の高揚（危機管理マニュアルの作成、防災訓練（みやざきシェイクアウトへの参加など）） ⑤人権教育の充実（人権学習年3回など） ⑥人権尊重の推進（外部機関との連携など）		○		
2	■目標（２）夢を叶える学校づくり【2. 72】 ①キャリア教育の推進（キャリアパスポートの作成、インターンシップなど） ②進路指導の充実（企業説明会、小論文指導など） ③ものづくり教育の推進（高校生ものづくり競技会参加など） ④資格取得の推進（資格取得指導やその成果など） ⑤基礎学力の定着（研究授業週間の実施など） ⑥思考力・判断力・表現力の育成（新学習指導要領の研究など） ⑦多様な進路志望への対応充実（進路面談の実施など）		○		
3	■目標（３）健全な心身を育む学校づくり【2. 71】 ①基本的な生活習慣の確立（挨拶や服装指導、保健だより発行など） ②生徒会活動の充実（生徒会主体での文化祭・クスマッチなど） ③部活動の充実（全国大会や九州大会への出場など） ④読書活動の充実（日々の「朝の読書」の時間など） ⑤主権者教育の推進（市議会傍聴や市議会議員との意見交換会など） ⑥奉仕活動の推進（各種ボランティア活動など）		○		
4	■目標（４）信頼される学校づくり【2. 82】 ①受検生の確保（体験入学、各中学校での高校説明会など） ②広報活動の充実（ポスター制作、HPの充実など） ③家庭との連携（PTA広報部通信の作成、HPの充実など） ④地域との連携（地域のイベントへの協力など） ----- ①OJT・OFF-JTの充実（研修会、各分掌・教科・学科で推進） ②誠実さを信条とした組織づくり（研修会、各分掌・教科・学科で推進） ③働きやすく働きがいのある職場づくり（研修会、各分掌・教科・学科で推進）		○		

目指す学校像

- 社会の変化に即応しながら工業教育を実践する学校
- 生徒一人一人の可能性を高め、個性を生かす教育を実践する学校
- 郷土並びに社会の発展に貢献できる心身共に健全な生徒を育成する学校

スローガン 「生徒一人一人が育ち、輝き、誇りをもつ都工」

（１）安全安心な学校づくり

避難訓練、シェイクアウト訓練、各種講演会等を通し、自分の命は自分で守り、他者を思いやる心を養った。また、職員向け心配蘇生法及びAED講習会を実施した。

人権学習については1・3学期は各学年でテーマ（いじめについて考える、相手を尊重する関係をつくる（講演会）、就職差別を考える等）を決め実施した。2学期は全学年を対象に講演会（演題：部落問題について）を実施した。現在だけではなく将来を見据えた人権教育を行い、優れた人権感覚を持った社会人を輩出する必要がある。

（２）夢を叶える学校づくり

進路状況については今年度1967社から求人票をいただいた。コロナ禍以降、年々増加傾向にある。就職希望者のうち、第一希望の企業内定率は93.6%であった。県内就職率は33%であり、昨年度より5%上昇した。進学は76名、公務員は10名であった。今年度も、県内企業理解を目的として2年生の生徒と保護者を対象に県内企業説明会を実施した。次年度は1・2年生を対象に実施する方向で検討中である。

資格取得についてはジュニアマイスターゴールド22名、ジュニアマイスターシルバー29名であった。生徒への指導時間の確保や生徒の主体的な学習姿勢の醸成、受験料が1万円を超す資格検定があるなど保護者の負担が大きいこと等が課題である。

（３）健全な心身を育む学校づくり

運動系、文化系、工業技術系合わせて29の部が活動している。各種大会において多くの部が好成績を収めた。特に、バレーボール部：県高校総体優勝、春の高校バレー県予選優勝、自転車競技部：県高校総体男子個人ロードレース1位など、弓道部：県高校総体男子団体・個人優勝、県高校新人男子団体・近的・遠的優勝、少林寺拳法部：県高校新人男子総合優勝、女子総合優勝、美術部：県高校総合文化祭特選1名、囲碁部：県高校囲碁選手権大会男子団体優勝、機械技術部：高校生ものづくりコンテスト県大会 旋盤作業 最優秀賞、建設技術部：高校生ものづくりコンテスト県大会 木材加工 最優秀賞であった。

（４）信頼される学校づくり

学校HPについては、各種行事や学科の取組などをタイムリーに掲載する事に加え、PTAと連携しPTA新聞も掲載することができ、保護者や地域の方に情報発信が行えた。

小学生木工教室等の地域で行われるイベントに生徒・職員が協力したり、校内で学科間連携を行い宮崎国スポ・障スポに係るカウントダウンボードを製作し会場に設置するなど、学校やものづくり教育に対する理解をいただけるよう努めた。